

## 平成 28 年度 第 2 回千葉市教育センター運営協議会議事要旨

教育センター

- 1 日 時：平成 29 年 1 月 20 日（金）14 時 30 分～16 時 30 分
- 2 場 所：千葉市教育センター 4-1 研修室
- 3 目 的：協議会は教育センターの事業計画その他の重要事項について協議する。  
（千葉市教育センター運営協議会規則第 3 条）

### 4 運営協議会委員

<委員>

[敬称：略]

柳谷 昌代（海浜打瀬小学校校長）	堀米 宏（轟町中学校校長）
植草 茂生（稲毛高等学校校長）	小川 彰（院内小学校校長）
鳥海 亮（高洲小学校教諭）…代理（三幣 良 犢橋小学校教諭）	
加曾利典子（平山小学校教諭）	中後 直樹（若松中学校教諭）
大谷美知留（桜木小学校教諭）欠席	福本 順（指導課長）
植草 伸之（養護教育センター所長）	増澤 保明（教育センター所長）
<スーパーバイザー>	
大塚 昌男（元教育センター所長）欠席	高橋 浩之（千葉大学教育学部長）欠席
岩切 裕（淑徳大学教授/元学校教育部長）	

### 5 協 議

「平成 28 年度事業の課題に対する達成状況」、「第 1 回教育センター運営協議会での指導事項とその対応」、「今後の課題及び方向性」について総務班、情報教育・広報班、教育研究班、教職員研修班、教育相談班より報告・提案を行った。

#### （1）第 1 回千葉市教育センター運営協議会における指摘事項への対応

##### 【管理運営事業】

###### ①電話交換機修繕について

平成 29 年度予算について、建築部が電話交換機の予算を要求した。

##### 【情報教育・広報事業】

###### ①機器整備について

市内全校一斉にプリンタ及びスキャナの追加配備は次期システム更新時に検討していく。公費（備品）として学校で調達したプリンタやスキャナについては、インストール申請受理後、ネットワーク運用委託業者と教育センターによって、稼働できるよう施工を行ってきた。

###### ②情報管理について

他県の情報漏えいの案件については、システム自体と運用面での問題から引き起こされたものと理解している。Cabinet 統合システムにおいては、外部との接続は運用委託業者のメンテナンス用と家庭からの SSL-VPN 接続以外の経路を遮断している。校務システム内で処理しているものであれば、流出の危険性はない。

###### ③次期 Cabinet システムへの要望事項について

Cabinet 運用委託業者との定例会議において、修正できるものについては協議を重ねている。

## 【教育研究事業】

### ①次期学習指導要領に関する情報収集について

中教審「審議のまとめ」を受け、アクティブ・ラーニングについての資料を作成し、学校現場に配信した。次年度の課題研究で、次期学習指導要領に対応する研究も加え、基本研修、専門研修の講座内容に生かしたり、出前講座や夜間講座等でも成果を発信し広めたりしていく。

## 【教職員研修事業】

### ①道徳の研修について

本年度、次期学習指導要領を見据え、初任者研修、リレー研修、専門研修、夜間講座で実施した。専門研修で開設した2講座は、どちらも定員を大幅に超え、すべての希望者を受け入れることができなかった。来年度も希望者が多く見込まれるため、「道徳授業づくり」は入門編、指導編、中学校編と3講座に分け実施する。また、「未来を拓く力を育む道徳教育」の定員を100名から120名に増やして実施する。

### ②小学校対象の英語活動の研修について

小学校英語の教科化の対応として、専門研修では「これからの英語教育」及び「誰もができる小学校英語活動の実践」を開設した。また、夜間講座で前期は「Let's enjoy!外国語活動」、後期には「～先生方も楽しもう！いろいろな Activities～」を実施した。次年度はさらに専門研修において、引き続き「これからの英語教育」と、名称を変更した「デジタル教材 Hi, friends!」を基にした授業実践（全日講座）を2講座開設し、延べ3講座を実施する。また、市教研連携講座の「小学校英語活動」「中学校英語科」においても、学校現場で即実践できるよう内容を改善した。

## 【教育相談事業】

### ①ライトポート稲毛の設置について

ライトポート指導員増員分の予算要望、設置校との打ち合わせ、施設改修準備、備品消耗品の購入準備を進めた。

## (2) 質疑 (○が質問及び意見、・が回答)

## 【情報教育・広報事業について】

○Cabinet システムのメンテナンスやコンテンツの開発等、大変ありがたいと感じている。さらに職員の勤務負担軽減と情報保護という観点で、学校現場では一人一台パソコン所持を求める声が、非常に強くなっている。次期システムにあたり、回線の強化やパソコンの配置についての展望を教えてください。

・次期のシステムについては、授業担当者と学校事務担当者では使用目的が異なるので、この点も考慮しながらすべての方が使える一人一台パソコンへの準備を進めている。

・平成23年から Cabinet システムが始まっているが、全員にパソコンが行き渡っていない状況が続いており、業務の効率化等の問題が生じている。また、回線が細く動画再生等で不便をかけている。2月の議会で承認が得られれば回線の増強は予算化される。次期 Cabinet 統合システム継続についても予算化を要望しているので、センターとしては、コンサルテーションの業務発注に向けて準備をしている。具体的には専門業者から指導助言をもらってシステム設計をしていくので、もう2～3年くらいはかかるだろうとみている。

○現在中学3年の学年主任をしており、高校受験の調査書作成作業で、校務システムにお世話になっている。大変便利ではあるが、作業をしていると、さらに工夫していただきたい面が見えてくる。学校現場の声が反映できるようなシステム構築を今後ともお願いしたい。

### 【教育研究事業について】

○特別支援学校の先生方の中に、研究意欲のある方が多くいる。研究班が担当する研究論文等の発表者として、特別支援学校の先生方はどの程度関わっているのか。

・研究論文や実践論文の応募については小中学校だけでなく、特別支援学校に対しても案内を出している。例年、市教研の理事や指導主事から先生方に声をかけてもらい募集を進めている。特別支援学級の先生の応募は毎年あるが、特別支援学校の先生からの応募はない状況が続いている。今後は養護教育センターと協力して、特別支援学校を含め、いろいろな校種の先生方から応募してもらえるようにしたい。

○教育研究や研修事業で「わかる、つかえる、やくにたつ」研究や研修を目指していただいております。センターの図書資料室に配架した新しい本の紹介パンフレットが、校内で配布された。本もFAXで申し込み、メールボックスを通して借りたり返却したりできるので、先生方にも紹介したい。

### 【教職員研修事業について】

○研修後のアンケート調査の資料から満足度も高いということがうかがえる。同様に研修事業を行う養護教育センターとしても気になっているのだが、研修の成果を学校現場で生かしていると言えるのだろうか。そのあたりについて考えがあれば教えてほしい。

・研修したことに対する感想の中には、「学んだことを生かしていきたい」というものがあるが、実際にどのように生かしているかまでは調査していない。ご意見を参考にしていきたい。

・研修班が追跡調査を研究するという方法もある。

○高等学校の教員は千葉市の研修に参加する機会がほとんどない。しかし道徳や教育相談など、義務教育から共通して学べるものがたくさんあると思う。高校の教員が教育センターの研修を受けることは可能なのか。

・可能である。2月17日にアフタヌーンセミナーで筑波大学の藤田教授を講師とするキャリア教育の研修が教育会館で予定されている。これについても稲毛高校に案内をお送りしている。また、夏の研修会は稲毛高附属中学校宛てではあるが、参加をメール等で呼びかけている。高校の先生も、積極的に参加していただきたい。

○10年以下の教員が過半数になろうとしており、市教研にとっても大きな課題である。センターでもいろいろな研修を企画し対応してもらっている。講座を開設していく中で、特に若い人の割合を考慮しながら定員配分をしているのかお聞きしたい。若い人が取りたいのに取れないという状況はないか。

・若い人を中心に据えた定員配分はしていない。ただし、リレー研修2年目と5年経験者研修については、その中で夏の専門研修講座をとることになっており、定員がオーバーしていても優先的にとれるようにしている。専門研修講座に参加した教員の全体の内訳をみると、6割が10年未満の先生方なので、若い人が受講しているということになる。

○リレー研修2年目、3年目の満足度は資料に出ているが、受講率はどのくらいなのか教えてほしい。

・基本研修なので、例えば育休や産休などで休んでいる方は別だが、2年目は98%、3年目は91%の

受講率である。

- 基本研修の満足度はどれも 90%を超えておりすばらしい。一つだけリレー研修(3年目)の満足度が 88.4%で低い、どのように捉えているか。
  - ・このリレー研修(3年目)だけは昨年度も 80%台で同じ傾向になっている。リレー研修(3年目)は 2 回あり、最近の研修では 1 1 月にメンタルヘルスを行った。アンケートを見ると、「すでにやった内容である」、「知っている内容である」と書かれており、一度やった内容をやっているのも満足度が下がったと思われる。次年度は満足度の数値が高くなるよう、内容を検討したい。
- 10 年経験者研修についての要望である。10 年経験者研修の実施時期を弾力的に扱うことができるかどうか聞きたい。校内で 10 年研の受講者が複数名いたり、学校への負担や、ゆとりのない時期での受講であったりして、無理な受講は子供たちにとってもプラスにならないと思われる。10 年研ではなく中堅という位置づけで柔軟にできないか。
  - ・平成 29 年 4 月より、教育公務員特例法の一部を改正する法律の中で名称が「中堅教諭等資質向上研修」に変わる。現在の 10 年経験者研修は 11 年目の教員が受講することになっているが、10 年を標準として任命権者が定める年数ということになっているので、今までも、特別な事情がある場合は柔軟に対応してきている。現在、国から指針が出ていないため、今のところ次年度の実施は例年通りと考えている。また、これは設置要綱等の問題があるので指導課と協議しなければならない。
- 免許更新の時期が 10 年経験者研修と重なったり、他の経験者研修と重なったりということがある。他の政令指定都市では経験者研修を免許更新と兼ねているという事例がある。教育センター独自の研修で免許更新の講座を設定することについて検討しているかどうか聞きたい。
  - ・確かにそのような他市や他県があると聞いている。現在、免許更新についての調査研究を教育センター内で進めているところである。
- 自分自身が小学校と中学校の勤務経験があり、特に小学校の実践の中に中学校で生かせるものが多いことを実感している。以前の初任者研修では小学校と中学校の教員が相互に、それぞれの勤務校を訪問して勉強しあったが、現在はどうか。やっていないのであれば、取り入れるといいのではないか。初任者研修に取り入れるのが難しいのであれば、5 年研で取り入れられないか。5 年経験者にもなると学校全体が見えてくる時期となり、改めて相互の実践を見合ったりすると、効果があるのではないか。中学校の入学時に、小学校と中学校で引継ぎの会議をやるが、それに加えて実際に子供たちの様子を見ることができれば、教育相談といった面からも、より効果的ではないか。
  - ・初任研で以前は異校種参観が行われていた。小学校の先生は、幼稚園・中学校・特別支援学校へ、中学校の先生は、小学校・高校・特別支援学校へ行っていた。以前は初任研が 25 回あって、現在は 20 回に減らしている。精選せざるを得ず、現在はそのような交流は行っていない。リレー研修 2 年目の研修生が授業の導入部分を相互に見せ合う研修を行ったとき、中学校の先生が小学校の先生の導入を見て、とても参考になったと言っていた。今後の研修を見直していく中で、参考にしたい。

### 【教育相談事業について】

- サポートプログラムの成果が出ていることは承知の上で質問するが、グループ活動やライトポートの卒業生への追跡調査、いわゆる効果測定を中止した理由を教えてください。
  - ・以前は卒業してから 3 年後の状況についてアンケート調査を行っていたが、再度検討を行い、学校に在籍している子供たちに対する支援に重点を置いていくことにしたためである。

- ライトポート5か所の現在の入所者数を教えてほしい。また、次年度、ライトポート稲毛が新設された場合の入級者の予定数を教えてほしい。
  - ・平成28年度12月末、ライトポート全体で110名の子供たちが入級している。内訳はライトポート花見川25、若葉23、中央22、美浜25、緑15である。また、来年度開級予定のライトポート稲毛は、その時々で年度ごとに変化するので確定しないが、15名から20名程度と想定している。
- 小学校の不登校対策の最近の動向で良いニュースがないかどうか教えてほしい。
  - ・指導課所管のデータではあるが把握しているところで回答すると、市内小学校の不登校者数は平成19年度を境に増加傾向にあり平成26年度に若干減少したものの27年度は増加している。よって増加傾向があるという言葉を使わざるを得ない。また全国平均を上回っている。しかし市内中学校に関しては全国平均を下回っている。
- スクールソーシャルワーカー（SSW）がどのように機能しているのか教えてほしい。
  - ・千葉市教育センター相談班にSSWが一人常駐しており週4日の勤務になっている。所内ケース会議で専門的な立場から指導・助言をしてもらっている。また、教育相談を進める際、福祉関係機関との連携の可能性を判断するときにも的確な助言がもらえ、心強い存在である。
- 指導課の立場から発言すると、小学校不登校児童については全国、県ともに千葉市が上回っている状況であり課題となっている。小学校のころから累積することで中学校までの課題となってしまう。センターと連携して改善していきたい。スクールカウンセラーは中学校で平成17年から全校配置になっている。ただし、心理面だけでは解決できない場合があり、SSWは家庭環境全てについて関わる場合に他の機関と結び付けるコーディネータ役になる。年々需要が増えており、増員のための予算要望をしているところである。
- 高校の通級指導教室の問題が平成30年度から入ってくる。その点について情報があれば教えてほしい。
  - ・（養護教育センターより）これはLD等通級指導教室のことであるが、高校は市教育委員会の企画課が所管ということになるので、企画課、そして指導課とも調整した上で二つの高校に通級指導教室をおくかどうかも含めて協議することになる。
  - ・（指導課より）指導課が所管である「千葉市特別支援学級・通級指導教室設置検討会議」というものがある。その中で今後、議題としてあげていくことになる。
  - ・（高校より）そのような状況になったときに、センターなどでも研修をお願いしたい。
  - ・（指導課より）指導課でも初めて特別支援教育に携わる学校担当者に対して研修等を行っている。養護教育センターでもそのような機会があると思う。
  - ・（養護教育センターより）高校の先生で特別支援教育にかかわる研修を希望するのであれば養護教育センターとしても協力はできる。高校に行って講師として研修を行うこともできるので遠慮なく言ってほしい。

#### [スーパーバイザーの方から]

- 運営協議会自体が活発な話し合いになっており、センターの業務が充実している様子が伺えた。
- センターの組織がスリム化し、わかりやすくなっている。各所に成果が表れている。
- 管理運営上では施設の老朽化も心配だが、予算要望をして改善されてきているということもわかった。
- 情報教育・広報班によるHPのトップページのリニューアルが大変よい。視覚的にもわかりやすく、

さらに校内研修用のページも学校現場で使いやすくなっている。

- 市教研を通して感じたこととして、最近の若い先生たちがとても研究授業への意気込みがあり、やる気を感じられる。このような先生たちを、研究や研修班で後押ししてもらいたい。
- 小学校を中心に外国語や道徳などの負担が増している。センターだけで解決する問題ではないので、教育委員会全体で連携して負担軽減の問題を考えていく必要がある。
- 大学で教員養成をしている立場から申し上げるが、優秀な学生を学校現場に送り出しても、夏休みまでに多くの者が保護者の対応等の問題でメンタル的にまいってしまう。そのような点で厳しい状況に陥っていることを想定して、初任者への研修を進めてほしい。
- 各新任研修等で扱われた貴重な情報や内容を、今後 HP やイントラ版などで学校現場に提供していただけるとありがたい。
- 教育相談班の業務内容は多岐にわたり、センターとしても苦勞していると思うが、ライトポート稲毛の開設も含めて、頑張ってください。また私自身が、学生の SSW 養成に関わる仕事をしているので、今回話題に出た SSW が大きく機能していることや期待されていることなどを、学生たちに伝えたい。
- センター全体の業務の多さにあらためて驚くわけだが、そこを上手に整理しながら、これからも業務運営をしていただきたい。